

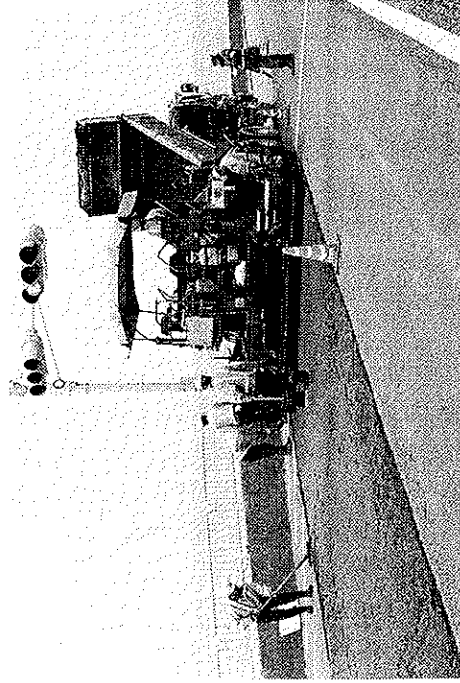
新都市社会技術研 舗装用骨材資源プロジェクト

◆4月から1トンの1000円以上まで含めた各グレード間の価格差の進捗には、1トンあたりが約1000円あるのが実態だ。08年度に続いて再び4けた以上の値上げを打ち出した同社の秋原和之代表取締役社長に現状を聞いた。

この人



「鋼向けなど異なる契約形態で、単価は高止まっている。今回の値上げは、廃棄物処理に伴うコストアップと研究開発費の増大を主体として」



三つの人工砂を使い試験施工

舗装用スファルト合骨材は、砕石と砂を骨材に用い、中国からの天然砂も輸出禁止になるなど、原料となる砕石が全国的に不足しているのが現状だ。どこにもあっても人手が足りないのが現状だ。どこに推積する砂は少なく、砂の供給を遠方や海外に頼らざるを得ない状況だ。

都市環境などテーマに、産学官が技術の融合・創造を目指して研究を進め、都市社会全体に貢献することを目的に設置した「新都市社会技術融合創造研究会」(委員長・大西有三京都大学理事・副学長)。そのプロジェクトの一つである舗装用骨材資源の有効利用に関する研究(プロジェクトリーダー・山田優大阪市立大学名誉教授)で、不足する天然砂に替わる人工砂を利用したスファルト舗装の研究が進んでいる。兵庫県淡路市の国道28号で砂に替わる転炉スラグ、溶融スラグ、コンクリート再生骨材をそれぞれ用いた試験施工が始まった。

溶融・転炉スラグ用い試験施工

溶融・転炉スラグ用い試験施工は、これまで、路盤材の需要が減少していることから、より有効な用途での利用が求められており、溶融スラグもごみを高価な設備で処理して産出するため、有効利用の促進が必要とされている。また、コンクリート再生骨材は、JISが制定されたが、骨材としての利用は進んでいないため、公共工事での利用促進として舗装工事が期待されている。

同プロジェクトは、近畿地方の天然砂不足への対応を図るべく、種々の骨材資源の活用を検討し、舗装用骨材の安定供給・品質管理策の提案を目指して08年度から3年計画を進めている。現在、舗装会社ならびに土木学会、近畿地方整備局と阪神地区の4自治体が参加している。

今回、試験施工した人工砂のほか、ダム堆砂、砕石粉、下水汚泥焼却灰の利用率や再生骨材の利用しやすくなるコンクリート舗装、舗装材のりせん性、耐久性、すべり抵抗などの追跡調査を行い、10年度末に品質管理策の提案を行う。

転炉スラグは、これまでに主に路盤材として利用

経営後継 連携強化
日本塗料 装 白川修
日 東 京 京 報 日 本 報
パストラル 次世代を担
同士の連携 的とする研
上亭真。 豊頭、
乃一塗料 「今日のや
や仲間同士 報などをま
に生かして い。これら
者の皆さん るとあいな
研修会や の塩崎英久
あ
19日に会
用を申請し
は、債権者
26日に東京
大阪地区
く。更生事
経営陣が関
I・B型)を
で社長に就
豊氏の下で
む。
更生法を
あおみ建設